よこすか育成通信 26
2019年
3月31日
発行

歴史散策～おりょうさんの街・大津～ 第13回中学校対抗ウォークラリー大会

『歴史散策～おりょうさんの街、大津～』をテーマに、大津中学校および周辺地域で、第13回中学校対抗ウォークラリーが開催されました。スタッフとして青少年育成推進員75名、ゲーム補助員として県立横須賀工業高校の生徒8名を含め、総勢372名が参加しました。

12月9日(日)、今秋一番の寒さとなった曇り空の下、エントリーした18校46チーム289名が校庭に集結し、出発順を決めるゲームの後、公郷中学校Cチームの中谷さんの選手宣誓で、競技が始まりました。

大会はゲーム・クイズ・ラリーポイント合計250点を競う形で実施されました。コースには、坂本龍馬の妻おりょうさんの眠る信楽寺、御柱の立つ諏訪神社、大津行政センター内の陣屋模型、大津小学校校庭の根回り232cmの大くすの木その他あり、坂道の連続したハードな行程でした。

神社・仏閣・史跡に関するクイズを案内看板や説明板、墓誌をヒントに解き、ぎんなん幼稚園と根岸小学校でゲームを競い、後はラリーポイントの時間への挑戦です。生徒たちは寒さを吹き飛ばす勢いでラリーを楽しんでいたようです。

昼食は、昨年好評だったカレーライス。今年も大満足で、中には3杯おかわりをする中学生も多数見受けられました。

最後に、いつも軽妙な話術の井上副会長の成績発表と表彰式で無事終了しました。(里見 規矩夫)

入賞チームに感動インタビュー

総合1位 ラリーポイント1位 不入斗中学校Aチーム

同じ小学校出身のチームです。ラリーポイントで1位になったのが勝因です。木の太さ当てクイズの時に40番手にいるのに気が付いたので、ダッシュで真ん中位に順位を上げたのが正解でした。

コースはちょうど良い長さだったけれど、地図が判りづらく、最初の方で道を間違えてしまいました。

ゲームはおもしろくて楽しかったし、クイズは歴史のことが良く解って勉強になりました。(番場 清隆)

総合2位 公郷中学校Cチーム

全員が科学パソコン部のメンバーで、お互いに注意し合ったり、直感を働かせたのが2位になった勝因。コースは坂が険しかったが楽しかった。ゲームでは0点もあったが、良い思い出。木の周囲をあてるクイズは難しかった。(芦澤 雄一)

総合3位 クイズポイント1位 追浜中学校Aチーム

メンバー構成は男子2名・女子3名の5名の陸上部。

勝因について質問したら、「チームワークがよかったことと優秀な先輩がいたこと」をあげてくれた。

また、今回のウォークラリーに参加してよかったことはと聞いたら「おりょうさんの歴史を知れた」ことを挙げてくれた。

1、2年生は「来年には優勝したい」と力強いコメントもくれた。

その他、今回のコースについては「道に迷うことが多かったし、ゲームの内容は楽しかったけれども、難しかった」と。

「クイズの内容は、14問という問題数は適当であり、問題ごとにヒントが随所にあったのでわかりやすかった」ようだ。(市川 仁)

ゲームポイント1位 大矢部中学校Eチーム

「ペットボトルを倒すゲームで、三人満点を取ることができ、勝利に繋がったと思います！とても盛り上がりました」

「コースは歩きやすく、神社・お寺もあり楽しめました」

チームワーク抜群の駅伝部女子4名(3年・2年・1年生)「来年も是非参加したいです！」と笑顔で答えてくれました。(横山 静子)

～支えよう　輝く人のみらい～

子供・若者育成支援強調月間に因んだパネル展示と非行防止キャンペーン

パネル展示を実施

11月5日～9日
市役所北口展示コーナー

この月間中に環境研究部会が作成したパネルを展示しPR活動を行いました。

このパネルは子供・若者育成支援をテーマに各中学校区の地域連絡会で開催されるイベントの紹介がメインで、特色あるものが出来上がったと思います。

パネル作成の難しさを乗越え、部会内で改善を重ねより良いものを作りあげました。

これらのパネルは各地域でのイベントに活用して、青少年の健全育成活動に利用していただきたいと思っております。

（環境研究部会長　佐々木　教之）

7地区で非行防止キャンペーンを展開

電力中央研究所

10月20日14時～
（武山・大楠中学校区）

秋晴れの土曜日、電力中央研究所にて大楠・武山中学校の生徒をメインに地域連絡会の方も加わり、総勢28名で実施しました。

はじめは、道行く人たちへ声をかけることに気後れしている様子が見受けられた生徒たちでしたが、周囲の大人たちには初々しくも爽やかな印象を与えていました。まわりの大人に後押しされ、この短時間にコミュニケーション能力を発揮し、仲間に支えられながら、積極的に人を追う姿が頼もしく感じられました。

終えた時の達成感に満ちた生徒たちの笑顔、賞賛を称える地域の大人達という構図が、地域力の高さを感じさせ、安心・安全な街作りの基盤であることを思わせてくれた意義深い一日となりました。

また、地域連携の一翼を担うイベントにもなりました。（佐藤　泰幸）

津久井浜駅周辺

11月10日10時30分～
（野比・長沢・北下浦中学校区）

寒くなりつつある季節ではあるものの、少し暖かい日差しに包まれる中、三中学校の先生と生徒、地域連絡会、育成関係者の総勢51名が参加しました。

この日の津久井浜駅前は、駅やスーパーを利用する方、イモ掘りやみかん狩りへ向かうバスを待つ方、近くの高校で行われた学校説明会から帰宅する親子などで賑わっていました。

参加した生徒たちは、電車の時刻表から人の流れを予測して立ち位置を工夫したり、偶然遭遇した友達にアピールしたりしながら、非行防止を訴えることができました。

キャンペーンに参加した生徒たちにとっては、普段交流のない三つの中学校で協力し合いながら地域貢献する、貴重な経験になったものと思います。

（細川　真也）

北久里浜駅周辺

11月10日15時～
（公郷・岩戸・大矢部中学校区）

快晴の土曜日、学校行事と重複したこともあり、生徒14名他、先生・保護司・推進員合わせて31名、キャンペーン始まって以来の最少人数で実施しました。

生徒たちは、気後れすることなく、チラシとティッシュを手に、大きな声で「非行防止キャンペーンを行っています、ご協力をお願いします」と、駅の乗降客を中心に、笑顔で配布していました。受け取ってくれた方も「ありがとう」「頑張ってね」と声を掛けてくれました。

心配した配布時間も30分で済みました。当協議会の織田会長より労いの挨拶があり、キャンペーンは無事終了しました。

（里見　規矩夫）

京急久里浜駅周辺

11月17日11時～
（神明・久里浜中学校区）

秋も深まり、穏やかな天候に恵まれたこの日、駅前商店街・はろーど通りで『久里浜食の祭典』が開催され、グルメを堪能できるとあって人の集まりに期待大です！

最初は小さな声で非行防止を呼びかけていた生徒たちも次第に慣れ、チラシやティッシュを配る手つきもスムーズになり、あっという間の活動でした。

戻ってきた生徒たちは、声を弾ませながら「受け取ってくれた人から『ありがとう』と言われた！」「行き交う人にティッシュを手渡すのが難しい！」などと報告してくれました。

生徒、先生、地域連絡会、保護司、育成関係者総勢38名全員で協力しあって活動を終えたこと、受け取ってくれた人の笑顔と感謝の気持ちを忘れずにいてくださいね！（横山　静子）

浦賀駅周辺

11月17日13時～
（浦賀・鴨居中学校区）

暖かい秋晴れの日の午後、生徒32名、推進員、先生、保護司、育成担当、総勢55名が浦賀小学校前に集合。

こども育成総務課職員、浦賀学区リーダーのあいさつ、集合写真撮影の後、13時過ぎから駅周辺の数か所でキャンペーンを展開、14時前には用意したティッシュ、チラシの配布を終えました。

生徒たちは《私たちには地域の見守りが必要です。私たちを守ってください！》という気持ちを込めて、明るい笑顔と元気な声で通行人に呼びかけ、多くの方が温かく応えてくれました。

同世代の非行・被害防止を市民に訴えてくれた生徒の皆さん、今年もありがとう！（濱口　幸治）

京急田浦駅周辺

11月17日15時～
（田浦中学校区）

日中は20度を超えて風もなく、中秋を思わせる日和でしたが、日が傾くにつれて11月の寒さが忍び寄る不安定な気候でした。

育成関係者、田浦警察署、保護司、先生、生徒を含む総勢16名の参加で、元気に活動を行いました。初めに当協議会会長の挨拶をいただき、その後、駅前の商店街に分散する形で配置につきました。

少し寂しい人数ではありましたが、先生・生徒たちの元気良い声掛けのおかげで、地元の人や駅を利用する方たちに、啓発用のティッシュとチラシを手渡すことができました。

単調な繰り返し作業になりがちではありましたが、お年寄りの方の「ご苦労様、家に帰ってからよく読んでみるね」という嬉しい言葉に、「ありがとうございます」と大きな声とお辞儀をしている生徒たちの姿が、とても微笑ましく、周りの空気を和ませていました。

（椎野　芳行）

活動体験発表会

2月9日
青少年会館

織田会長の「いろいろな地域でこういう活動をしているということを知る良い機会が、今日の活動発表会です」というあいさつから始まり、田浦、公郷、大矢部、野比の4中学校と育成研究部会の発表がありました。

田浦中学校区は子どもたちの健全な生活を見守るため、地域との連係を深める講演会を中心とした情報共有や定例会などに力を入れているようです。

公郷中学校区は学区内通学路の清掃活動を地域の方々と一緒に行うことで、地域愛の芽生えや子どもたちとの交流を深めているようです。

大矢部中学校区は過去にヘレンケラーが来校されたという歴史あるろう学校が地域にあるとのこと、驚きました。

野比中学校区は毎年1月に実施されている防災体験教室を通して、防災の大切さを子どもたちに伝えているようです。

そして、育成研究部会は大きなイベントであるわんぱくフェスティバル、中学校対抗ウォークラリーの企画運営の話をされていました。（本田　智子）

わんぱくフェスティバル2018

10月28日(日)
（県立保健福祉大学）

当日は雲一つない快晴のもと、心地よい爽やかなわんぱく日和になりました。8時半から準備開始、大勢の担当スタッフの協力で

机・いすの運び出しなどの準備はスムーズで9時過ぎにほぼ完了。

メイン会場には、主催5団体等のさまざまな出店が並び、子協の昔懐かしいポン菓子の爆発音の合図で10時に開幕しました。

屋外ステージでは、フォルクローレ他の生演奏、市立総合高校生の書道とダンスのパフォーマンスの素晴らしい演技が続き、屋内ステージでもダンス、吹奏楽の演奏が披露されました。

そのほかにチョコバナナ販売、紙飛行機づくり・非行防止啓発ポスター、けん玉遊び、ボーイスカウトやガールスカウトのバラエティあふれる出店、保健福祉大学生ボランティアグループ「アナーコット」の展示、ジュニアリーダーズのゲーム（屋外と体育館内）、不入斗中学校の科学教室、そしてフリーマーケット・・遊び心、わくわく感と楽しさ満載で、来場者は約350人、子どもを中心に、みんな一緒に"わんぱく"になって盛り上がった楽しい時間でした。

スカリン、人KENあゆみちゃん、チョコバナッピーなどのマスコットキャラクターの大活躍に、こどもも大人も大喜び、そして恒例の園児たちの可愛い鼓笛隊の行進と演奏の後、14時半に盛況のうちに無事閉会、スタッフの手際よい会場の後片付けで解散、お疲れさまでした！（濱口　幸治）

よこすか育成通信
題字：上地克明 市長
発行者／横須賀市青少年育成推進員連絡協議会　会長 織田俊美
〒238-0016　横須賀市深田台 37 番地（横須賀市立青少年会館内）
横須賀市役所こども育成部　こども育成総務課　TEL／046-824-5377
URL／http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3405/g_info/1100050659.html

11月18日

第51回神奈川県青少年指導員大会

厚木市文化会館

「私たち青少年指導員に求められること」をテーマに、清川村青龍太鼓の迫力ある演奏で幕を開けました。

主催者・来賓のあいさつの後、66名の青少年指導員に、感謝状が贈呈されました。横須賀市の表彰者は、西脇幸二さん（鴨居中学校区）と小島栄子さん（衣笠中学校区）でした。

座間市と綾瀬市青少年指導員連絡協議会の地域紹介を兼ねた活動発表の後、県立青少年センター指導者育成課の主任専門員である、川手隆生氏による講演がありました。

「信頼して任せることで子どもは元気に育つ」と題し、将来子どもたちが自信を持って生きていくためには「選択する力」「課題を解決する力」「人とつながる力」が大切であると説かれました。そのための手段として、川手氏は「子どもの参画」と「体験学習」を実践されています。その中で、子どもたちが失敗したり、困難にぶつかったとき、話し合い、耳を傾け、まずは信頼することが一番であると述べられました。

私たち育成推進員にも大変参考になる内容で、今後の活動に是非、活かしていきたいと思います。（E・K）

1月26日

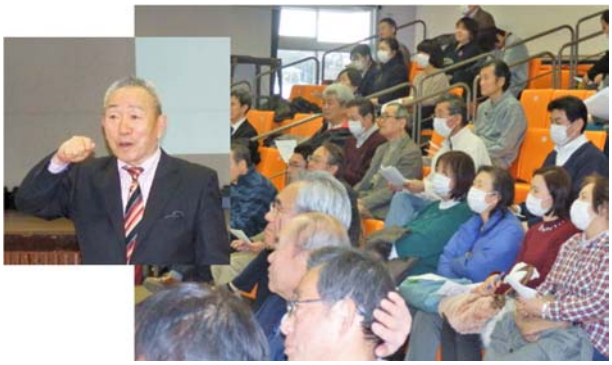
～げんこつ先生 熱く語る～

横須賀市立青少年会館

教育アドバイザーの西野学先生をお招きし、技術研修会が開催されました。

初めに、織田会長と中尾研修部会長から、あいさつと子どもたちの支援の大切さや横須賀の教育の現状についてのお話がありました。

西野先生のお話は、子どもたちの現状や、不登校、いじめ、発達障害などについて、大変興味深く、全国と比較した神奈川県や横須賀市の子どもの調査データを示しつつ、先生の体験談を交えた具体的なエピソードが満載で「目からうろこ」の内容でした。



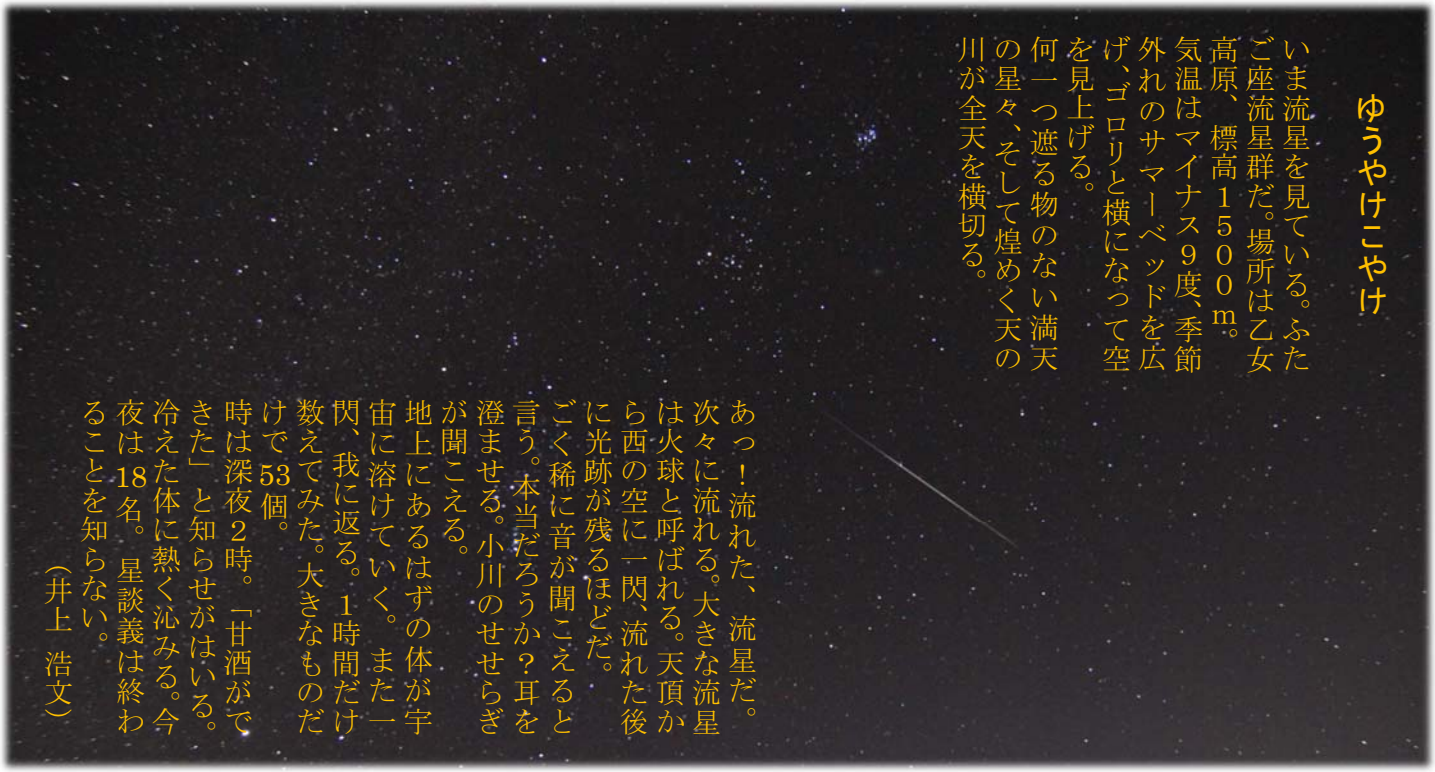
特に印象的だったのは、子どもが門限を過ぎて帰ってきたとき、その場で怒るのではなく、やさしく接すること。そうやって子どもの「言い訳のシナリオを壊す」ことで、本人の反省を促すことができるとのことでした。（山本 光）

編集後記　26号の完成に当たり、各行事にご協力いただいた中学校の先生、生徒、地域連絡会・育成推進員の皆様方のご協力に、広報研究部会一同、心より感謝申し上げます。（K・B）

ゆうやけこやけ

いま流星を見ている。ふたご座流星群だ。場所は乙女高原、標高１５００ｍ。気温はマイナス９度、季節外れのサマーベッドを広げ、ゴロリと横になって空を見上げる。

何一つ遮る物のない満天の星々、そして煌めく天の川が全天を横切る。



あっ！流れた、流星だ。次々に流れる。大きな流星は火球と呼ばれる。天頂から西の空に一閃、流れた後に光跡が残るほどだ。ごく稀に音が聞こえると言う。本当だろうか？耳を澄ませる。小川のせせらぎが聞こえる。地上にあるはずの体が宇宙に溶けていく。また一閃、我に返る。1時間だけ数えてみた。大きなものだけで53個。時は深夜2時。「甘酒ができた」と知らせがはいる。冷えた体に熱く沁みる。今夜は18名。星談義は終わることを知らない。（井上 浩文）